

地元が大好き
にしかわ ちあき
西川 千晶さん

水口在住の西川さんは、市内で「ピアノを贈ろうコンサート」というイベントを仲間たちと一緒に起ち上げ、続けられています。また、その他にも地域を盛り上げようと音楽劇やご当地ヒーローショーなど色々な場面で活動されています。



◆なぜ地元で活動？

生まれも、育ちも大学も仕事もずっと滋賀県なので、地元で過ごして遊んでいるうちに、気が付いたら地元が大好きになっていたんです。だから、甲賀市がわいわいとした楽しい街になってほしいと思い、私自身楽しみながらイベントに参加したり、企画したりしています。

それと、高校生の時から地元のスイミングクラブ仲間と一緒に始めたシンクロショーで、全国大会にも出場し、上位に入賞しました。その時の仲間や経験が今の私の原動力になっています。

◆「ピアノを贈ろうコンサート」はどうして生まれたのですか？

小さなころから所属していた合唱団の先生に、チャリティコンサートを開いて、募金や入場料で東北に文化的な時間を取り戻してもらおうとピアノを贈ろうと持ちかけました。

先生が仙台出身ということで企画はすぐ形になり、これまでに4回開催しています。このコンサートでは、地域のみんなに音楽をはじめとした本格的な芸術を楽しんでもらいたいと思っていますので、ぜひ一度おいでください。

◆西川さんのこれからのビジョンは？

昨年1年間、留学のため初めて地元を離れました。その時に客観的に地元を見た経験や、その時できた友だちから「忍者を見に甲賀に行きたい」と言われたことなどから、もっともっと地元を発信できるようにしたいと思っています。

今は、「ピアノを贈ろうコンサート」を中心に活動していこうと思います。私個人的な思いになりますが、音楽以外の分野で活躍される地域の方々とも協力して大きなアートイベントに育てていければ嬉しいですね。

大募集 「ピアノを贈ろうコンサートvol5」を一緒に作ってくれる人

5回目のコンサートが来年5月に開催できるよう、準備が進められています。企画、出演、スタッフの方々、有志の皆さんです。

一緒にお手伝いして下さるスタッフ、演奏やご自身の特技でイベントを盛り上げて下さる方、どんな形でも結構です。興味をお持ちの方は、ぜひお気軽にご連絡ください。

問い合わせ あいこうか市民ホール ☎62-2626

やさしいまちづくりへ

鹿深車イスDEウォーキング2013in甲南

り方を学ぶことなどを目的に甲賀・湖南市の旧7町を巡回しながら毎年実行委員会が開催しているもので、今年で14回目を迎えます。今回は、成田牧場など甲南ならではの6つのウォーキングコースが用意され、まちの魅力に触れるとともに、トイレや買い物などの日常生活、また避難場所にも立ち寄り「災害・防災」の視点からもまちを見直しました。



▲声を掛けながら急な坂道を下る参加者

車いすですまちを巡る「鹿深車イスDEウォーキング」が10月12日、甲南町で開催され、甲南中学校3年生や地域の方など約350名が参加しました。この催しは、車いす体験を通してバリアフリーに向けた環境や施設の在り方を学びながら毎年

環境教育を通じて地域の意識が高まる

油日小学校環境フェスティバル

親子で身近な環境について学ぶ「環境フェスティバル」が10月12日、油日小学校で開催され、全校児童203人と保護者らが参加しました。地域と協力し、継続的な環境教育を実施している県が認定するエコ・スクールのモデル校である同校が、毎年実施しているこのイベントは、児童らによるエコ委員会、PTAによるエコ支援委員らがリーダーとなり、地域の身近な環境を学ぶ取り組みです。今年も、同校ピオトープでのいきもの探しや、地元産森林組合による木材加工体験をはじめとして多くの体験学習が実施されました。参加した保護者は「子どもたちと一緒に学び、地域の大人たちも環境への意識が高まってきている」と親子そろっての学習を楽しんでいました。



▲ピオトープでいきもの探し

元気なまちかど

地域の魅力を舞台上で伝える

ミュージカル「すずか御前」

創作ミュージカル「すずか御前」が10月5、6日の両日、忍の里プララで上演され、6歳から78歳までの公募で選ばれたキャスト40名が熱演しました。ミュージカルを通して地域のよさを次代に伝える活動を続けるNPO法人甲賀文化輝きの6作目で、一昨年の上演からキャストティングや演出に工夫を加え再演されました。土山を舞台に蟹が坂の由来や民謡鈴鹿馬子唄などが盛り込まれ、鈴鹿御前をはじめ鈴鹿の山で山賊と戦った「鬼たち」と人の心の葛藤が描かれています。繰り広げられる歌やダンス、人の心を描いたストーリーに、2日間で1,100人訪れた観客は感動に包まれていました。



▲キャスト全員で歌う感動のフィナーレ

ゲートボールでつながった親睦

第21回忍者の里杯ゲートボール大会



▲皆が見守る中放たれるショット

第21回忍者の里杯親善ゲートボール大会が10月9日、甲南グラウンドで開催されました。100チーム約600人のゲートボール愛好家が集った大会は、県内だけでなく三重県や奈良県といった県外からの参加も多く、会場は参加者の熱気に包まれました。いくつもの競技コートが設けられたグラウンドでは、五人のチームワークにより熱い戦いが繰り広げられました。参加者は「色々な地域から集まってくる仲間たちとゲートボールができるのを毎年心待ちにしている。今日は、競技を楽しむことはもちろん、普段会うことのないみんなとの出会いを楽しみたい」とこの大会が楽しみな気持ちで話していました。

母校での時を超えたつながり

山内小学校140周年記念事業

山内小学校創立140周年記念事業として人文学の航空写真撮影が10月10日、同校グラウンドで行われ、児童40名と地域の皆さん110名が参加しました。同校は、明治6年に創立された4つの学校が統合されるなどして昭和16年、山内国民学校として現在の前身となりました。この日、地域の皆さんの協力によって、総勢164名で「140」の人文字を校庭に描きました。同校OBの一人は「何十年前前に卒業したが、孫のような歳の児童たちとこうして肩を並べ、人文字を作るのは感無量」と、同じ学び舎で数十年の時を超えたつながりができたことを感動していました。



▲グラウンドに作った140の文字